

<対策のポイント>

開発途上国が直面する農業農村開発分野の技術的課題を解決するため、各国のニーズ及び対応状況について把握し、民間企業と連携したODAの活用方策の検討を行います。

<政策目標>

本事業の成果を関係機関・民間企業等に情報発信する。（10社以上〔平成32年度まで〕）

<事業の内容>

1. 新たな技術的課題に対する技術調査 15（20）百万円

アジア各国の作物多様化の方針や畑地整備状況、農業水利施設の整備・管理状況、気候変動に伴う降雨強度の変化によるため池への影響等を調査します。また、調査結果を踏まえ、畑地かんがい計画手法や施設の老朽化状況の診断に基づく劣化予測手法、施設情報を蓄積・管理するデータベースの整備、ため池の点検・補修技術等の新たな技術的課題について、民間企業の海外展開及びそれらと連携したODAの活用の方角性を検討します。

2. 開発途上国向けの技術資料作成 7（9）百万円

新たな技術的課題について、国内の技術基準書及び民間企業の有する技術に関する資料等を収集し、開発途上国向けに整理します。

3. 開発途上国との技術交流 16（15）百万円

日本と開発途上国との技術交流において、我が国の民間企業も招へいし、各国の政府関係者から技術ニーズを把握します。

〔事業実施期間：平成27年度～平成31年度〕

<事業の流れ>



<事業イメージ>

発展途上国の農業農村開発分野における課題例

作物多様化

- 野菜等の他作物へのニーズが高まっているが、畑地かんがいが未導入
- 現地進出する食品産業へ、安定的に高品質な畑作物を供給できない

かんがい施設の老朽化

- これまでODA等により整備されてきたかんがい施設が老朽化
- 農産物の安定生産に影響

気候変動の影響

- 近年の異常気象に伴い、干ばつ及び洪水が頻繁に発生
- 農産物の安定生産に影響

課題解決に必要な新たな技術を調査・検討

畑地かんがい

- 畑地かんがい計画手法
- 畑地かんがい施設の整備



施設の長寿命化

- 施設の老朽化状況の機能診断に基づく劣化予測技術
- 情報を蓄積・管理するためのデータベース



防災

- 気候変動に伴い降雨強度が強くなり、決壊の恐れのあるため池の点検・補修

